

各 位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(2025年09月分)

ご協力ありがとうございました。2025年9月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 141 回答 128 回答率 90.8%

調査項目	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上昇・好況	やや 増加・上昇・好況	横這い・平常	やや 減少・下降・不況	10%以上 減少・下降・不況	
売上数量	14社	20社	51社	24社	19社	128社
	10.9%	15.6%	39.8%	18.8%	14.8%	
	(3.1)	(7.8)	(33.3)	(24.0)	(31.8)	
売上高	13社	15社	49社	22社	29社	128社
	10.2%	11.7%	38.3%	17.2%	22.7%	
	(4.7)	(6.2)	(23.3)	(28.7)	(37.2)	
在庫数量	7社	13社	59社	30社	13社	122社
	5.7%	10.7%	48.4%	24.6%	10.7%	
	(4.9)	(12.2)	(48.8)	(21.1)	(13.0)	
販売単価	1社	9社	57社	52社	7社	126社
	0.8%	7.1%	45.2%	41.3%	5.6%	
	(2.3)	(7.8)	(39.8)	(41.4)	(8.6)	
収益状況 (粗利)	11社	19社	51社	32社	14社	127社
	8.7%	15.0%	40.2%	25.2%	11.0%	
	(3.9)	(10.2)	(30.5)	(32.0)	(23.4)	
稼働率 (生産・加工設備)	4社	18社	55社	23社	12社	112社
	3.6%	16.1%	49.1%	20.5%	10.7%	
	(1.8)	(6.4)	(43.1)	(28.4)	(20.2)	
入出庫の トラック台数	5社	19社	59社	29社	12社	124社
	4.0%	15.3%	47.6%	23.4%	9.7%	
	(1.6)	(6.4)	(38.4)	(33.6)	(20.0)	
現在の 景況感	1社	7社	46社	39社	34社	127社
	0.8%	5.5%	36.2%	30.7%	26.8%	
	(0.0)	(2.3)	(30.5)	(39.1)	(28.1)	
3ヶ月後の 景況予測	0社	11社	86社	25社	5社	127社
	0.0%	8.7%	67.7%	19.7%	3.9%	
	(0.0)	(10.2)	(63.3)	(21.1)	(5.5)	
特記事項						

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②()内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
事務局 TEL : 047-350-5311 FAX : 047-350-5316

景況実感調査(2025年9月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

【お断り】寄せられたコメントは、各社担当者の現場の声です。個々の会社固有の状況にもとづくものも多々あります。業界全体及び浦安鉄鋼団地全体の見解とは必ずしも一致しませんので、お含み置き願います。また、不穏当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 需要は相変わらず低迷継続中だが、9月に入りスポット物件を少し拾えたお陰で、販売量は前年同期を少し上回った。この傾向が続くことを望みたいが、一時的な結果で終わる可能性もある。市況としては、ようやく輸入材も値上げのオファーが出て来ており、下げ止まるかも知れない。
- ② 9月の業績は前年比で微増となり、底堅く推移している。店売り分野では、需要および価格の低迷により収益は悪化しているが、紐付き分野では、トラック分野が底堅く推移していることから、どうにか前年並みを維持できた。また、加工賃は正の動きが活発化してきているため、タイミングを逃さず、適宜アナウンスを行っていく。

中板

- ① 中板は依然として需要の回復は見られず低調。引き合いは小口当用買いの域を出ない。市況は東鉄10月売出しの影響もあり、引き続き弱含みジリ安となっている。

厚板

- ① <全体感>各分野において仕事量は相変わらず低位横ばいとなっており、下期に向けても回復の兆しが見えない。背景は関税問題による輸出の低迷、先行き不透明感による投資需要の減速があげられる。
<分野別>建産機においては下期、生産調整も視野に入れた慎重な計画となっており、回復は期待できない。特に海外向けが苦戦しており、輸出比率の高い分野ゆえ、影響が大きい。店売りも国内需要の低迷に準じて荷動きは鈍く、市況の低迷と合わせて物量によっては安値も散見され始めている。
- ② 建設機械は輸出向けの不透明感から、減産も顕著で売上も減少している。店売り関連は引合いもなく、売上も減少している。
- ③ 橋梁免震は相変わらず振るわず低位横ばい。回復の兆しが見えず、この状態が続くと予想されている。店売りは引合いもなく、荷動きは少ないというより、ないに等しい。

一般形鋼・H形鋼

- ① 各メーカーが値上げを打ち出している（1社を除く）。足元は未だ需要は低迷しているが、流通としては値上げした製品が入荷する前に、価格転嫁をしたいところ。今後、需要が少しでも回復すれば市中価格は上昇すると思われる。

- ② 減産を中心とするコスト高から各メーカーの値上げ発表による転嫁姿勢が明らかになった。我々流通も需要云々で弱腰になっている場合ではない。メーカー同様に物流・労務などコスト転嫁に取り組まなければ事業存続にかかわる。
- ③ 各調査項目は前年同月比増加しているが、去年は営業日数が1日少なかったこともある。押し並べて顧客の仕事は今後とも薄く厳しい状況である。販売数量の確保が目下の大命題で、過日のメーカー販価値下げは付随的なことである。
- ④ 鉄骨、コンクリート、鋼材、輸送コストが値上がり、発注抑制や工期遅延を招いている。新築着工よりリノベーション、改修が多くなっていて、商品の動きが悪い。

異形棒鋼

- ① 荷動きはようやく回復してきたが、市況はメーカー販価の値上げ表明もあって、横ばい推移。採算回復には時間がかかる。
- ② 依然需要は停滞。市況価格は弱含み。労務費、物流コスト分の価格転嫁を粘り強く訴えていく。

平鋼

- ① 9月の倉出し出荷は、前半までは良かったが、某メーカーの値下げで再度荷動きが停滞している感がある。ただ、その他の電炉メーカー各社は値上げを発表しているので、底値感が出た感じがするが、荷動きは変わらず様子見の当用買いが中心。メーカーが値上げ発表して、各顧客からの在庫補充に関する引き合いが無いので、様子見状態でこのまま推移するのではと考える。
- ② 最悪期からは脱した感じがする。秋需時期に入り受注増を期待するも、目立った物件等の話は聞かれず。メーカー値上げのため、市中価格も値上げせざるを得ないが、必要な値上げは通るか心配。

軽量形鋼

- ① 足元の大型物件が終了すると閑散期となりそう。2026年前半は仕事が少なくなる危機感あり、メーカーの取り合いによる単価下落が心配。
- ② 年末、年度末に向かい、若干受注増ではあるが、継続するかは現時点では読みづらい。トラックの確保も徐々に厳しくなっている。

構造用鋼

- ① 需要は、自動車関連の一部で堅調も、他では濃淡がある。建機は中間在庫増もあり、生産計画の下振れで低位な状態。産機は海外向けが伸びず。店売りは終始当用買いの状況で低位のまま。在庫は出荷量見合いの発注でほぼ適量。価格はスポット案件で安値が散見されるが、大勢は現行価格維持の姿勢。

磨棒鋼

- ① 米相互関税に一定の目処がついたことから、自動車向け紐付品は少しずつではあるが、出荷の回復に向けた動きが出てくる気配。建産機も今後同様の動きが期待できる。

ステンレス

- ① 国内材は据え置き、海外材はジリ高となった。荷動きは低調のままである。苦しい状況はまだ続くと覚悟し、社内のD X化等でコスト低減を推進していく。

その他

<スクラップ>

- ① 鋼材需要の低迷を起点としてネガティブループが続いている。市場全体に停滞感が漂う状況。一方で、10月のスクラップ輸出入札は予想を上回る高値での落札が見られた。円安に振れた為替要因が大きく影響しており、実需の回復はまだ期待できない。

<金属表面処理>

- ① 9月は紐付き、物件物ともに計画通り。スポットは前月比▲10%の取り扱いとなる。引き合いは低調。明細が細かく、10月は大きく上振れはなさそうで、紐付きがベースとなりスポット次第では久々の低操業で推移。